

公共空間における環境彫刻Ⅳ

—新文殊菩薩—

有田 信夫 平嶋 守* 瓜生 隆弘**

Environmental Sculptures in Public Spaces Ⅳ

— The New Bun Bodhisattva —

Nobuo Arita, Mamoru Hirashima* and Takahiro Uryu**

Abstract

Many sculptures have been installed in public spaces all over the country over these last 20 years. The reason is because a sculpture's setting raises a beautiful sight, and this is because it gives people visiting a public space a message and a sense of ease.

However, when a sculpture was installed in a public space, there were many cases left to the judgment of a person concerned with a sculptor and administration of the establishment till now. In the case of the person about sculptor and administration, much thought about public harmony with the space is given to the setting. If anything, the person about sculptor and administration, the setting is apt to depend on the sense of the world. On this account because I am adverse to an aim of the sculpture establishment, and an installed sculpture is inappropriate, I lost an image of public space, and there is the case that it can stream down an original message, and does not give a sense of ease. In addition, when an inappropriate work was installed in a certain public space, It lost a beautiful sight visually and, it gives a person contacting with the sculpture an unpleasant psychological feeling.

When work with an inappropriate image was installed in a certain public space the sculpture loses a beautiful sight visually and, besides, gives a person close against a sculpture an unpleasant feeling psychologically. The ideal method of the scene includes public space and harmony with the sculpture in question.

Therefore at first, I took up the sculpture (The New Bun Bodhisattva) at the Kurume Senkoji Temple Park which was an environmental sculpture that began as an object of the studies to put an appropriate sculpture in the public space.

We investigated a production concept and a production process, the relations of the Kurume Senkoji Temple Park which became the sculpture of the public space in the background, environmental sculpture and the relations of the citizens' taste image.

Key words: Environmental sculptures, Public Space, Sensibility image

* スタジオ CoCoRo ** 近畿大学九州短期大学

公共空間における彫刻（新文殊菩薩）

Sculptures in Public Spaces

有田信夫（楊夫）／ARITA NOBUO 平嶋守／HIRASHIMA MAMORU 瓜生隆弘／URYU TAKAHIRO
近畿大学九州短期大学／kyshu Junior College of Kinki University スタジオ CoCoRo



作品タイトル「新文殊菩薩」

作品概要（素材：ブロンズ鑄造、白御影石、制作手法：塑造、サイズH410×W90×D90（cm）、制作年：1989年）

I . 研究の目的

本研究では次の項目について調査・分析することを目的とする。

- (1) 研究・制作の背景
- (2) 彫刻制作コンセプト
- (3) 彫刻制作プロセス
- (4) 制作後のイメージ調査

□公共空間の彫刻と背景になる風景の関係

(1) 研究・制作の背景

1978年に九州俳句界のリーダーの一人であった岸秋溪子氏が逝去された。氏の守り本尊は文殊菩薩であった。会長の妻が故人の13回忌に供養のために栄西禅師を招いて開いた日本最古の臨済宗の一つである久留米千光寺境内に守り本尊である文殊菩薩を安置したいと言われ、作者に文殊菩薩像の依頼をされた。また千光寺境内は九州耳納山麓の一部にあたる。筑後の人たちの散策公園にもなっている。最近では40種5千株のあじさいが、植えられ、「あじさい寺」として市民に親しまれている。初めての仏像の依頼により、1ヶ月間、寺や仏像の資料を研究した。一番優れた文殊菩薩像は法隆寺に安置されている仏像と分かった。仏像の制作に入る前に生臭い自分の体を清めるために、夜明け前から、水垢離も行った。

(2) 制作のコンセプト

彫刻（仏像）は、九州俳句界のリーダーの岸秋溪子氏の守り本尊の文殊菩薩であり、会長の13回忌に供養のために安置される。一方仏像が安置される境内は九州耳納山麓の一部にあたり、筑後市民の散策公園になっている。まず、設計にあたっては、下記のことをコンセプトとし、計画をすすめた。

- ①彫刻（仏像）によって風格と神聖な空間がより一層品格を増し、市民に親しまれる空間になるように設計・制作する。
- ②過去の文殊菩薩像は右手に剣、左手に経典を持つものであるが、新文殊菩薩像には新しい形態を取り入れた。供養される方の平和祈願も取り入れ、右手に経典を、左手に神聖な蓮を持つ姿に変えた。
- ③彫刻の制作方法は塑造にする。
- ④素材は細やかな表現をするため最終素材をブロンズにする。また台座は白御影石とした。
- ⑤観ていて品格あるエレガントな彫刻であること。
- ⑥彫刻と背景の自然とのイメージ構造関係を一部分融合する。

(3) 制作のプロセス（制作期間5ヶ月間）

- ①コンセプトを基にアイディアスケッチ（100枚程度）を繰り返し、文殊菩薩像のデッサンを

描いた。

- ②イメージの決定。
- ③本制作用のデッサン図面作成。
- ④塑造のための心棒を図面寸法を基にアトリエ内に組んだ。
- ⑤モデリング
- ⑥石膏原型完成。
- ⑦ブロンズ鑄造発注。
- ⑧台座の素材決定。石屋への発注。

(4) 制作後のイメージ調査

1. 調査の目的

公共空間の彫刻を計画・制作するに当たり、制作者のコンセプトを第三者に正確に伝えなければならない。しかし彫刻家などが制作にかかわる場合、感覚的世界に頼りがちである。また仮に公共空間に設置されたとしても、不適切なイメージの作品の場合には、美観を損なうだけでなく心理的にも影響を与えかねない。そこで本研究では公共空間と彫刻との調和を含めた景観のあり方を検証することを目的に、彫刻の公共空間設置後にイメージ調査を以下の内容で実施した。

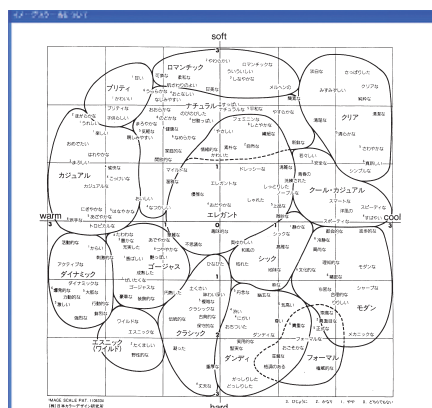
調査対象は九州耳納山麓の一部にあたる千光寺境内に設置した本制作である彫刻「新文殊菩薩像」を対象とし、彫刻と背景とのイメージの関係について、学生に対して行った。調査方法はNCD法（注1）による分析と結果をもとに考察を行った。

2. 調査の方法

NCD法による分析・結果・考察の調査研究を行った。

NCD法とは対象に対して被験者が抱く総合的印象を形容詞言語に置き換え、さらに形容詞言語が色彩と等価交換できることを特徴としている。また、NCD法は造形嗜好感性調査の多変量解析で、ものづくりに関する色彩、形態、材質、などの嗜好感性を尺度化、しかもそれらの相関性や構成法を事前検証している。

言語イメージスケール



カラーイメージスケール



3. 調査

①調査の期日

平成 21 年 7 月

②調査の対象

久留米千光寺の彫刻「新文殊菩薩」のイメージ

久留米千光寺境内である新文殊菩薩の背景イメージ

③アンケートの対象者

学生 60 人

③アンケートの方法

NCD 法により、彫刻「新文殊菩薩」、久留米千光寺境内にある文殊菩薩の背景イメージに対して、被験者がいなく総合的印象と被験者の嗜好イメージを形容詞 180 語の中から 15 ～ 20 語を選択する方法を用いた。

④アンケート調査用紙



下記の 180 語から彫刻のイメージにあう言葉を 15 ～ 20 選び、右欄に数字を記入して下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. アクティブな | 61. 味わい深い | 121. アンティークな |
| 2. うれしい | 62. エレガントな | 122. おとなしい |
| 3. 開放的な | 63. 格調のある | 123. 活動的な |
| 4. かわいい | 64. 閑静な | 124. きめ細かい |
| 5. きりりとした | 65. クラシックな | 125. 健康な |
| 6. 高尚な | 66. 合理的な | 126. さりげない |
| 7. 癒しみやすい | 67. 真実な | 127. シューブな |
| 8. 情緒的な | 68. 文才な | 128. 紳士的な |
| 9. すがすがしい | 69. 素直な | 129. 青春の |
| 10. 繊細な | 70. 荘厳な | 130. たくましい |
| 11. 丹念な | 71. カワイイ | 131. 田舎的な |
| 12. なじみやすい | 72. なつかしい | 132. のんびりした |
| 13. はなやかな | 73. ひなびた | 133. フォーマルな |
| 14. 本格的な | 74. 真面目な | 134. モダンな |
| 15. 愉快な | 75. 優美な | 135. りりしい |
| 16. あでやかな | 76. 淡い | 136. ういいうい |
| 17. 円熟した | 77. 奥ゆかしい | 137. 快活な |
| 18. 飾り気の無い | 78. 活気ある | 138. 枯れた |
| 19. 甘美な | 79. 気品のある | 139. 強烈な |
| 20. クリアな | 80. 気高い | 140. 高雅な |
| 21. こってりした | 81. 古風な | 141. 静かな |
| 22. しとやかな | 82. 渋い | 142. 充実した |
| 23. 情緒的な | 83. 女性的な | 143. 進歩的な |
| 24. スピーディーな | 84. スマートな | 144. 精密な |
| 25. 装飾的な | 85. 大胆な | 145. 男性的な |
| 26. 知的な | 86. 懐かしい | 146. どっしりした |
| 27. にぎやかな | 87. のどかな | 147. はつらつとした |
| 28. 微妙な | 88. 風流な | 148. 濃潤な |
| 29. みずみずしい | 89. メカニックな | 149. やすらかな |
| 30. ユーモラスな | 90. 力動的な | 150. ワイルドな |
| 31. あざやかな | 91. 安全な | 151. 生き生きした |
| 32. エネルギッシュな | 92. 男っぽい | 152. 温雅な |
| 33. 革新的な | 93. がっしりした | 153. 家庭的な |
| 34. 簡素な | 94. 機敏な | 154. キュートな |
| 35. くつろいだ | 95. 元気な | 155. 堅実な |
| 36. 行動的な | 96. さっぱりした | 156. さわやかな |
| 37. シックな | 97. 地味な | 157. しゃれた |
| 38. 上品な | 98. 人工的な | 158. 神聖な |
| 39. すっきりした | 99. 清潔な | 159. 清楚な |
| 40. 洗練された | 100. ダイナミックな | 160. 楽しい |
| 41. 淡泊な | 101. 艶っぽい | 161. 伝統的な |
| 42. なごやかな | 102. のびのびした | 162. 激しい |
| 43. ひかめのない | 103. フレミッシュな | 163. 文化的な |
| 44. マイルドな | 104. メルヘンの | 164. 運動的な |
| 45. 豊かな | 105. 理知的な | 165. 冷静な |
| 46. あどけない | 106. 居心地のよい | 166. 麗しい |
| 47. おおらかな | 107. 温和な | 167. 快適な |
| 48. カジュアルな | 108. 華やかな | 168. 可憐な |
| 49. 気軽な | 109. 清らかな | 169. 気楽な |
| 50. 軽快な | 110. 厳粛な | 170. 豪華な |
| 51. 子供らしい | 111. 刺激的な | 171. 自然な |
| 52. しなやかな | 112. 剛直な | 172. 純真な |
| 53. 叙情的な | 113. 新鮮な | 173. スカットした |
| 54. スポーティーな | 114. ぜいたくな | 174. セクシーな |
| 55. 素朴な | 115. タフな | 175. ダンディーな |
| 56. 厳密な | 116. 断食的な | 176. ドレッシングな |
| 57. 柔軟な | 117. 肌ざわりのよい | 177. 派手な |
| 58. 風格のある | 118. 平和な | 178. ほがらかな |
| 59. 軽蔑的な | 119. やさしい | 179. 優雅な |
| 60. 陽気な | 120. ロマンチックな | 180. 若々しい |

選択した語を 記入して下さい	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

あまり深く考えずに
気軽にお選びください

氏名:

性別: 男・女

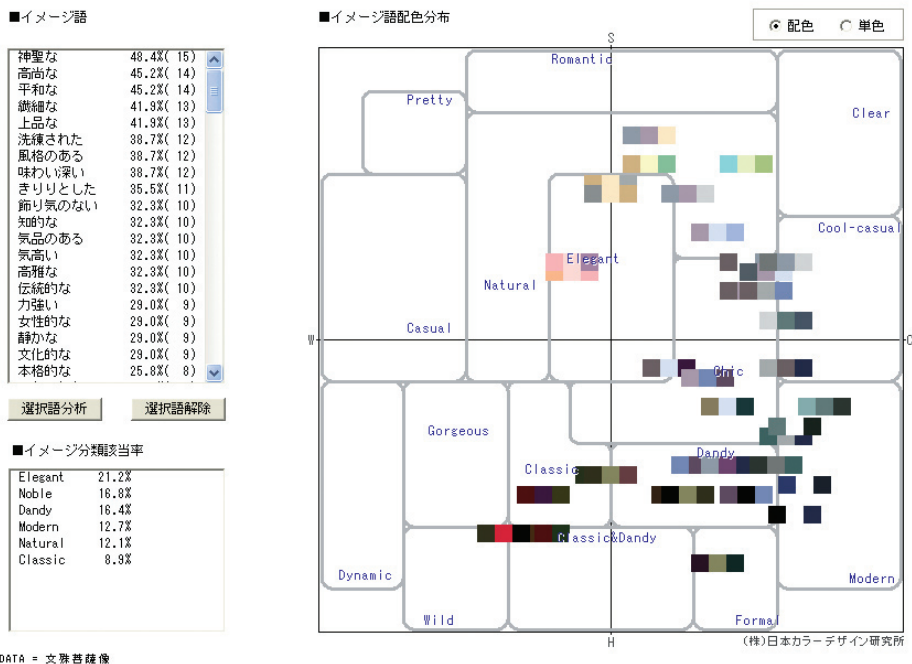
年齢:

□公共空間の彫刻と背景になる風景の関係

①彫刻（新文殊菩薩）に対するイメージ分析

W－C／S－Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、制作した彫刻のイメージはエレガント（21.2％）、ノーブル（16.8％）、ダンディ（16.4％）、モダン（12.7％）、ナチュラル（12.1％）、クラシック（8.9％）である。それに対して背景のイメージはナチュラル・クリア・エレガント・ゴージャス・ダンディである。よって、イメージの構造は1部分共通ゾーンがある。また、頻度の高い形容詞を見ると、神聖な（48.4％）、高尚な（45.2％）平和な（45.2％）、繊細な（41.9％）、上品な（41.9％）、洗練された（38.7％）となっている。このことから、この彫刻のイメージは「ノーブル・エレガント」である。また彫刻（新文殊菩薩）のコンセプト・イメージである「神聖な、エレガントな彫刻」に一致している。

■彫刻（新文殊菩薩）のイメージ

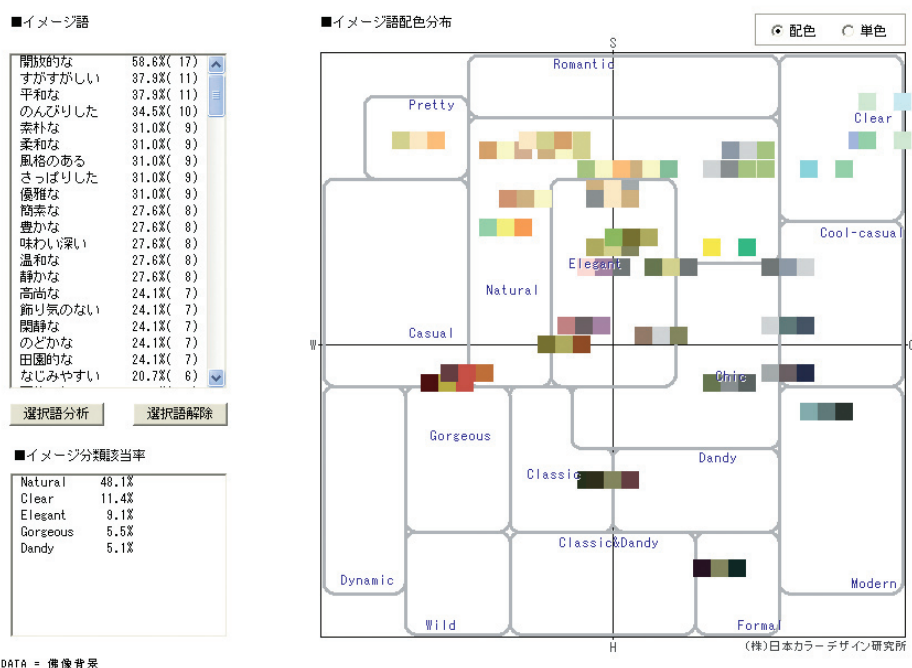


①新文殊菩薩の背景イメージに対するイメージ分析

W－C／S－Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、ナチュラル（48.1％）、クリア（11.4％）、に集中している。次にエレガント（9.1％）、ゴージャス（5.5％）、ダンディ（5.1％）の順となっている。頻度の高い形容詞をみると、開放的な（カジュアル）[58.6％]、すがすがしい（クリア）[37.9％]、平和な（ナチュラル）[37.9％]、のんびりした（ナチュラル）[34.5％]、素朴な（ナチュラル）[31.0％]、柔らかな（ナチュラル）[31.0％]、風格のある（ナチュラル）[31.0％]、さっぱりした（クリア）[31.0％]の形容詞が、上位をしめている。

このことにより、久留米千光寺の仏像の背景イメージは「クリア・ナチュラル」となる。したがって久留米千光寺の仏像背景イメージコンセプトは「すがすがしい・開放的で平和な空間」ということなので、イメージのズレはない。

■新文殊菩薩の背景イメージ



□彫刻（新文殊菩薩）と背景イメージとのイメージ関係

彫刻のメインデータの固有イメージ分析では W－C／S－H のイメージスケールを見ると、形容詞は神聖な（フォーマル）、繊細な（エレガント）、上品な（エレガント）、洗練された（シック）、きりりとした（ダンディ）、知的な（シック）、気品のある（エレガント）が上位をしめている。また、背景のイメージでは開放的な（カジュアル）、すがすがしい（クリア）、のんびりした（ナチュラル）、素朴な（ナチュラル）、柔和な（ナチュラル）、さっぱりした（クリア）、優雅な（エレガント）の形容詞が、上位を示している。共通イメージは高尚な（フォーマル）、平和な（ナチュラル）、風格のある（クラシック・ダンディ）、味わい深い（クラシック）、飾り気のない（ナチュラル）静かな（シック）形容詞になる。

したがって制作した彫刻のイメージは「クラシック・ナチュラル・モダン・ダンディ・モダン・エレガント」が含まれる。それに対して背景の風景は「ダンディ・ゴージャス・エレガント・クリア・ナチュラル」が含まれる。よって、イメージの構造は1部分共通ゾーンがある関係になる。

彫刻と背景の関係について1993年（平成5年）に近畿大学九州短期大学紀要（第23号）[デー

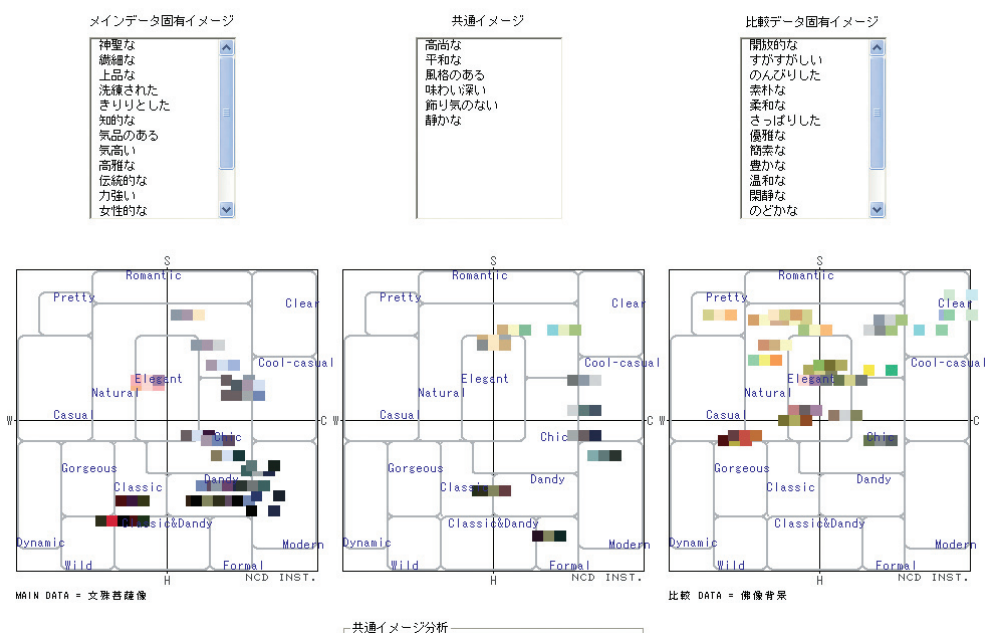
タ1]の発表と、日本デザイン学会(1994年 デザイン学研究)[データ2]の発表により彫刻と背景のイメージの関係については、下記のことがデータとして明らかになっている。<彫刻と背景のイメージの関係は次の3つのパターンに分けられる>

- ①イメージの関係は、対立関係にある。
- ②イメージの関係は、1部分共通ゾーンがある
- ③イメージの関係は、共通である

この3つのパターンの中で、①の場合、景観上、よくきわだつ。②の場合、景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。③の場合、景観上同化する。公共空間の環境彫刻の場合、空間の調和や親和の観点から景観上、一部分共通ゾーンがあることが、①の対立関係や③の同化するより②の1部分共通ゾーンがあることが好ましい。

よって彫刻(新文殊菩薩)と久留米千光寺の背景イメージとの関係は②のイメージ関係である1部分共通ゾーンがある。ということで景観上、きわだつ部分もあり、尚且つ同化するので、空間の調和や親和の観点から景観上、きわめて好ましい景観結果が得られた。

■彫刻(新文殊菩薩)と久留米千光寺背景イメージの共通イメージ分析



Ⅱ．研究のまとめ

公共空間の彫刻を依頼され、計画・制作し、25年が経過した。またNCD法という科学的方法を取り入れ、16年が経過した。今年2009年は、全国、阿修羅像の展覧会をきっかけに仏像の魅力再発見がなされている。久留米千光寺の彫刻（新文殊菩薩）は、1989年（平成元年）の制作で20年前に縁あって文殊菩薩を制作する機会に遭遇したが、制作の前に計画したことで今回の調査データとが一致し、彫刻と背景のイメージの關係に一定のよいイメージ構造が、判明した。

彫刻と背景のイメージの關係については、

＜彫刻と背景のイメージの關係は次の3つのパターンに分けられる＞

- ①イメージの關係は、対立關係にある。
- ②イメージの關係は、1部分共通ゾーンがある。
- ③イメージの關係は、共通である。

この3つのパターンの中で、

- ①の場合、景観上、よく際立つ。
- ②の場合、景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。
- ③の場合、景観上、同化する。となるが、

彫刻の場合、作家のメッセージがあるから背景と彫刻のイメージの關係は同化するよりきわだつ部分もあることが好ましい。それは、1部分共通ゾーンがあることで彫刻と背景とが響きあい共鳴している空間があることである。

この仏像の彫刻制作は従来の環境彫刻と異にして作家のメッセージを入れることなく、まず文殊菩薩の仏教上の約束事の研究と我を無にすることから始めた。よって作者の感性より仏像彫刻が持つ約束事の要素のイメージの方が強くイメージとして現れている。

日頃から科学的方法のNCD法も取り入れ、感性を磨く彫刻制作のスタンスがいかに大切であるか実感した。このことが、環境彫刻の設計上きわめて適切なる対応ができる。ここではとりあげなかったが、市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるか。調査する必要もある。また時代を超えた普遍的な公共空間の彫刻はどうあるべきか、日頃の制作を通じて今後、時間が経過することに市民の嗜好イメージも変わってくる。よって市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるかということもこの研究を通じて、再調査する必要が課題として出てきた。

公共空間における彫刻作品のあり方は、今後も、問われ続ける。また、同時に調査方法の問題も問われている。感性の世界が科学的データに基づいて客観的になることが公共空間の質につながると考えられる。

＜引用・参考文献＞

- 1) M. A ロビネット著、千葉成夫訳「野外彫刻」(SD、鹿島出版会)
- 2) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品に対する規制と撤去・破壊の史的変遷」(デザイン学研究 88号、1992)

- 3) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品の作品内容の在り方」(デザイン学研究 97 号, 1993)
- 4) 小林重順著「カラー・イメージ辞典」(日本カラーデザイン研究所)
- 5) 小林重順著「カラーマーケティング戦略」(日本カラーデザイン研究所)
- 6) 小林重順著「造形構成の心理」(ダヴィッド社)
- 7) 公共空間における彫刻作品に対するイメージ調査 有田信夫
ON THE INVESTIGATION OF IMAGES TOWARDS SCULPTURES IN PUBLIC SPACE
近畿大学九州短期大学研究紀要 第 23 号 平成 5 年 12 月
- 8) 公共空間における環境彫刻に対するイメージ調査
—環境彫刻のイメージと世代別嗜好イメージとの差—
有田信夫(日本基礎造形学会論文集・011 号, 2002)
- 9) 公共空間の環境彫刻に対するイメージ調査
環境彫刻のイメージと風土イメージの差
A COMPARISON STUDY ON DIFFERENCES OF IMAGES TOWARDS
ENVIRONMENTAL SCULPTURES IN PUBLIC SPACES
A Comparison of the Differences between Images towards Environmental Sculptures
and Images of Regional Climate 有田信夫(日本基礎造形学会論文集・012 号, 2003)
- 10) 公共空間における環境彫刻(石の記憶) 有田信夫((日本基礎造形学会論文集・作品集
015 号, 2006)
- 11) 公共空間における環境彫刻(くきの海) 有田信夫・平嶋守((日本基礎造形学会論文集・
作品集 016 号, 2007)
- 12) 公共空間における環境彫刻(The Line 2000 - 1) 有田信夫・平嶋守・瓜生隆弘((日本基
礎造形学会論文集・作品集・017 号, 2008)
- 13) 公共空間における彫刻Ⅳ(文殊菩薩) 有田信夫・平嶋守・瓜生隆弘((日本基礎造形学会
論文集・作品集・018 号, 2009)

<要旨>

この 20 年、全国の公共空間に、数多くの彫刻作品が設置されるようになった。美観を高めたり、公共空間を訪れる人々にメッセージや安らぎを与えるためである。

しかし、これまで、公共空間に彫刻を設置する場合は、彫刻家や行政、設置に関わる人の見識にまかされるケースが多く、この場合、彫刻家や行政、設置に関わる人は公共空間との調和を全く考えない訳ではなかったが、どちらかと言えば、感覚的世界に頼りがちである。このため、彫刻設置のねらいとは逆に、設置された彫刻が不適切なため、公共空間のイメージを損ない、本来のメッセージを伝えたり安らぎを与えていない場合がある。また、ある公共空間に、不適切なイメージの作品が設置された場合、美観を視覚的にそこない、そのうえ、彫刻作品に接する人に心理的に不快な感じを与える。公共空間と彫刻との調和を含めた景観の在り方が問われているのであり、そのためには、科学的なデータに基づく検討が必要と言える。

そこで、本研究では、公共空間に適切な彫刻を置く為に、まず、自らの初期の環境作品である久留米千光寺の文殊菩薩を取り上げ、制作コンセプトと制作プロセス、公共空間の彫刻と背景の関係を調査し、公共空間における彫刻の制作コンセプトやイメージの関係を分析した。

<キーワード> 環境彫刻、公共空間、感性イメージ、